



1. クラブ国際奉仕活動に学友会が協力

出雲中央RCとタイ米山学友会がタッグを組み、タイの病院へ医療器具を寄贈しました。

このプロジェクトは第2690地区（岡山県・島根県・鳥取県）と出雲中央RCによる地区世界社会奉仕プロジェクトの一つであり、同クラブがかつて世話をした元米山奨学生、ブサコーン・ホンヨックさんを通じて、タイ米山学友会へ協力を仰いだもの。同学友会はこの話を受け、寄贈先となる医療機関の選定や、現場で今必要とされている機器の把握、販売業者の情報などを調査し、出雲中央RCへ逐次報告。学友会から



の12,378パーツを足して、昨年12月にネーザルハイフロー（高流量で高濃度酸素を投与できる呼吸療法機器）1台を寄贈、ま

た、今年1月にはストレッチャーを1台ずつ2病院へ寄贈しました。現在、オミクロン株が急拡大しているため贈呈式には立ち会えなかったものの、「今回のご支援で、医療設備が充分ではない地域の病院を助けることができた。学友

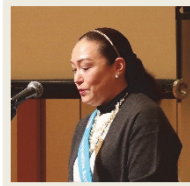


寄贈したネーザルハイフロー（銘板には出雲中央RCとタイ米山学友会の名が刻まれている）

会として世話クラブのお手伝いできたことが何よりも嬉しく、懸け橋の役割を果たせた」と、ワシン・テイシャチャイニラン会長（東京清瀬RC）とブサコーンさんが語ってくれました。

2. よねやま親善大使の活躍

2月5日、第2560地区米山奨学委員会が主催する「第2回米山委員長セミナー」が新潟市内で開かれ、よねやま親善大使のカレン・ジュリア・ウォーターズさん（1992-94/京都南RC）が同地区54クラブの米山奨学委員長に向けてスピーチをしました。今回はオミクロン株の感染拡大を受けてハイブリッド形式となり、会場に集まったガバナー、ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミネーを含む約25人は全員抗原検査を受けてから入場するなど、厳戒態勢での開催となりました。久しぶりの活動と



なったカレンさんは米山奨学生時代の感謝から現在の仕事に込める思いなどを語り、聞きながら涙を浮かべる参加者もいました。

現在の第4代よねやま親善大使の3人は、就任時からコロナ禍に見舞われ、ほとんど活動ができていません。このため、任期を1年間延長し、2023年6月末までとすることが決定されました。感染が落ち着いたと思ったら、ぜひよねやま親善大使をお招きください。



Q 招へいの費用はどのくらい？

地区・分区・クラブ周年行事の場合、親善大使の旅費（交通費・宿泊費・基本の食費）は奨学会が負担します。地区大会登録料、晩餐会参加費などは、招へい側でのご負担をお願いします。

Q クラブ卓話へ呼べますか？

できるだけ地区・分区行事への招へいをお願いしていますが、親善大使（大阪・東京在住）の旅費をクラブでご負担いただける場合、招へいが可能です。

Q どこに申し込めばいい？

米山奨学会事務局広報担当までメールまたはお電話でご連絡ください。折り返し、招へい申請書をお送りします。その後、事務局が派遣できる親善大使を調整します。

3. 寄付金速報 — まん延防止の影響で減少か —

1 月末までの寄付金は前年同期と比べて 1.9%減（普通寄付金:3.3%減、特別寄付金:1.1%減）、約 2,000 万円の減少となりました。ご寄付をいただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。例年 1 月は、普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分をお送りいただ

く定期寄付）の下期分の納入が主となります。しかしながらオミクロン株の影響で休会中のクラブが増え、1 月の納入金額が減少したように思われます。まだ先が見えない状況ですが、引き続きご協力下さいますようよろしく願いいたします。

4. 鶴ヶ島 R C が初の奨学生スピーチコンテスト

1 月 30 日、第 2570 地区（埼玉県）鶴ヶ島 R C が「第 1 回米山記念奨学生スピーチコンテスト」を初開催し、同地区奨学生 6 人と学友 2 人、計 8 人が出場。「日本について思うこと」をテーマに、一人 4 分の持ち時間で、それぞれ日本への思いを発表しました。会長賞には、尚美学園大学芸術情報学部で学ぶ鄭晴さん（マレーシア／2020-22／行田さくら R C）が選ばれ、齊藤大祐会長から表彰状と記念品が手渡されました。



このイベントは鶴ヶ島 R C が「地区内の米山奨学生から異文化を学びたい」と企画したもの。出場者を募り、審査員の一人として参加した同地区米山記念奨学部門委員長の渡邊藤男氏は、「普段、皆さんがクラブで聞く卓話とは異なり、より深く彼らの思いを知ることができた。思っていた以上に素晴らしく、感動をもらった。地区内の多くの会員にもぜひ聞いていただきたい」と、振り返りました。

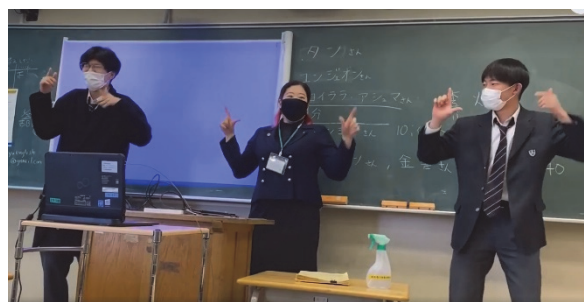
5. 高校生への国際理解授業

東京米山友愛 R C と東京米山ロータリー E クラブ 2750 が主催する、学友・奨学生と高校生との交流イベントが 1 月 22 日、都立小平高等学校で 2 年ぶりに開催されました。

この国際交流会は 2013 年度に東京米山友愛 R C が始めて以来、今年で 9 年目を迎えます。昨年はコロナで中止となりましたが、今年は感染対策を講じて 1 人が 1 クラスのみを担当、学友・奨学生が教壇に立つ授業スタイルへ変更し行われました。対象となったのは同校 2 学年の 7 クラス約 280 人。参加した米山学友・奨学生は 8 人。高校生たちにとってはコロナ感染拡大以降、初めて外部講師とふれ合う場とな

り、休み時間も惜しんで講師へ質問する姿が見られました。「言葉や文化だけでなく、生き方を教わった。国が違えば考え方も異なると思っていたが、実際に話を聞くと、近いものを感じた」と、ある高校生は感想を述べました。

企画した東京米山友愛 R C 会員の朴貞子さん（2006-08／岸和田 R C）は、「日本にいる奨学生・学友に多くのチャンスをあげたいし、ロータリーならではの体験をさせてあげたい。そしてこの経験を各自母国に持ち帰って、広めてほしい」と、話しました。また、同クラブは 1 月 8 日にも、都立成瀬高等学校でオンライン交流授業を実施しています。



学友と一緒に K-POP グループのダンスを踊る高校生